

令和4年度 府立北嵯峨高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
「独創質実（何事も自ら考え、主体的に判断し、真摯な態度と素直なこころで行動する。）」の校是の下、高校生活の限られた時間の中、集中力と工夫により学習と部活動の両立を実践し、「人を育て、心を育む」教育を目指す。 具体的には、 1 規律ある生活により、学力・体力・情操の向上を図る。 2 科学的認識を養い、創造性と実践力を育てる。 3 保護者・地域との連携を深め、生徒の進路についての願いを実現することに努める。 4 地域の歴史と文化遺産に対する理解を深め、その文化を守り育てる力を養う。	【成果】(1)ICT機器の整備・研修が進み、授業での活用の充実が図れると同時に、学びの保障が実現できた。 (2)配慮を要する生徒の情報を全教職員で共有しチーム学校として丁寧な対応ができた。 (3)服装指導・遅刻指導・携帯電話指導等を行い落ち着いた学校生活を送ることができた。 (4)コロナ禍の制限の中でできる限りの活動は実施できた。 (5)各部が連携し個々の進路実現を目指す指導ができた。 (6)人権教育を組織的かつ計画的に実施した。いじめ事象については適切な対応ができた。 (7)多方面で図書館を活用した取り組みができた。 (8)HP、SNSや説明会で本校の魅力が伝えることができた。 【課題】(1)交通安全について生徒の意識向上が必要である。 (2)コロナ禍が続く中、換気や黙食など健康安全意識を高めるべく継続して指導を行う必要がある。 (3)視聴覚機器のあり方が検討課題である。 (4)危機管理について教職員間でさらなる共通理解が必要である。特に情報管理が一層重要になってきている。 (5)コロナ禍で保護者や地域と連携を深めることが難しかった。	(1)新学習指導要領に基づく教育の研究・実践「個別最適な学び」と「協働的な学び」を統合的に行うことで「主体的・対話的で深い学び」を実現し学力向上を目指す。併せて新学習指導要領に基づいた指導と評価を一体として実践し社会で必要とされる資質・能力を育成する。 (2)ICTの効果的活用と家庭学習の定着 新型コロナウイルス禍であってもICT活用や今年度から導入するスタディサプリなどを活用して学習指導を推進していく。 (3)部活動のさらなる充実と発展 運動部・文化部の一層の活性化による「強い北嵯峨」を実現し、豊かな人間性を育成する。 (4)嵯峨・嵐山の教育資源の積極的活用 北嵯峨という地域のメリットを最大限に生かした教育を実施する。 (5)新しい生活様式への生徒の主体的な適応促進 新型コロナウイルスに対応した新しい生活様式へ主体的に適応できる生徒の育成を目指す。 (6)個に応じた指導と合理的配慮についての柔軟な対応 多様な生徒に対応するため一人一人に合わせたきめ細やかにチーム学校として対応する。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	◇新学習指導要領に基づいた教育を実践し指導と評価の一体化によりカリキュラムマネジメントを実施する。	◆「個別最適な学び」と「協働的な学び」を統合的に行うことで「主体的・対話的で深い学び」を実現し、観点別評価により指導と評価の一体化を図る。	1 B	新学習指導要領の実施や観点別評価などはスムーズに導入することができたが、今後も引き続き研究を続け改善していく必要がある。iPadの活用場面が増えてきたが学習効果については不明な点が多い。スタディサプリの活用が授業によって差があり、一層個別最適な学びに繋げる必要がある。
	◇iPadやスタディサプリなどICTを活用し学習習慣の確立と学力向上を実現するとともに、学びの保障につなげる。	◆iPad等の活用法を研究し校内で共有する。組織的なスタディサプリの活用により基礎学力と発展的学習に取り組み家庭学習習慣の定着を図る。緊急時の学びの保障を強化化する。	2 B	
生徒指導 特別活動	◇集団への帰属意識を育成し基本的な生活習慣を身につけさせる。	◆身だしなみ指導を通じて、本校生徒としての自覚と誇りを養うとともに、基本的な生活習慣の定着を図るために教職員の共通理解と一致した指導体制を構築する。	3 A	遅刻〇を達成するなど生活習慣・学習規律などが確立されている。年間4回の交通安全指導等で登校時の交通マナーは守られているが、下校時のマナーの悪さが指摘されており、重大な事故も起きている。交通マナーの指導を徹底して行う必要がある。部活動や生徒会は活発に活動しており、全国大会にも出場した。今後、地域との連携や生徒の自発的な活動などを増やして行くことが望まれる。
	◇交通規則の遵守と交通安全に対する意識を高める。	◆関係各団体と協力し、交通規則の順守と、自転車の交通マナー及び交通安全に対する生徒の意識を向上させる。	4 B	
	◇生徒会や部活動を活性化し、地域の教育資源を活用しながら生徒の主体性・社会性を育成する。	◆生徒会や部活動を奨励し自らを研鑽する姿勢と豊かな人間関係を獲得するとともに、地域の活動に主体的に参加することで社会性やボランティア精神による豊かな人間性の育成を目指す。	5 A	
進路指導	◇希望進路の実現に向けて進路指導を行うとともに、小中学校から連続してキャリア意識の形成を図る。	◆学年部・教科担当者・分掌・顧問等が個々の生徒の学力状況・学習状況をデータに基づいて客観的に把握し、多方面からの指導により、学力の向上と進路希望の実現を図る。	6 B	進学や就職については優れた成果を上げたので、ノウハウを継承するべきである。生徒の進路意識の向上を目指し、進路に向けた活動を早期に取り組めるようにするため、全ての教員が組織的に指導することが求められる。またセミナーやスタディサプリの活用を研究する必要がある。
		◆キャリア教育を充実し、生徒個々の進路意識の向上を図るとともに、就職率100%、大学進学率70%を目標に生徒個々の適性と希望に応じた進路指導を推進する。	7 A	

人権教育	◇人権問題を正しく理解させ、感染症に関する偏見や、いじめの根絶を図る。	◆あらゆる教育活動に人権の視点を入れ、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決や、いじめ等の未然防止のための意識を高め態度を育成する。	8	B	B	人権学習は学年毎に丁寧に実施できている。人権LHR 以外の場面でも人権学習を充実する必要がある。
健康・安全教育	◇配慮を要する生徒に対して適切な支援を行う。	◆保健部と担任や教科担当と情報の共有を図り生徒の状況を適切に把握し、教育相談会議等を活用し専門機関とも連携し、配慮を要する生徒一人一人への支援を適切に行う。	9	A	A	様々な場面で配慮を要する生徒の情報を共有し専門機関とも連携して組織的に個々の生徒に対応することができたが、今後も適切な対応ができているか検証する必要がある。新型コロナウイルスに対する対策を各自が協力して行うことができた。清掃については一層美化意識を高めるよう指導を継続する。
	◇教育環境づくりを推進するとともに、保健衛生の意識を高める。	◆日々の清掃活動を徹底し学校の環境を良好に維持するだけでなく、新しい生活様式に基づいた保健衛生を意識した主体的な行動が取れる態度の育成を目指す。	10	B		
図書館指導	◇図書館を活用した指導を充実させ、新しい時代に適応した図書館を目指す。	◆教科との連携を通じて生徒の読解力向上を目指す。ICT 活用も含めた図書館活用のあり方を研究する。	11	B	B	図書委員会を中心に様々な取組ができた。図書を活用することの重要性を継続して指導する必要がある。
安全管理情報・文書	◇学校の危機管理体制を教職員と生徒が一体となって強化する。	◆教職員と生徒自身が危機管理対応について理解を深め、自分や他人のために安心安全に適切な対応ができるようにする。	12	B	B	学校として警察や消防と連携して適切に危機対応ができた。災害以外の危機に対して研修や訓練はできなかった。ICT の活用が広がっているが取扱ルールなどの更新・周知などが十分ではなかった。
	◇ICT の拡充にともない学校の情報管理体制の一層の徹底を図る。	◆生徒の多様な個人情報を適切に管理し、学校の情報管理体制の充実と教職員のセキュリティ意識の向上を図る。	13	B		
家庭・地域社会との連携	◇広報活動を一層充実し、速やかな情報提供を図る。	◆各中学校との連携を深め、SNS 等を積極的に活用し広報活動を一層充実させ信頼される「行きたい」学校づくりを進める。	14	A	A	様々な場面で広報活動をおこない高い評価を得ている。学校運営協議会やPTA と連携ができた。地域の教育資源を活用する場面を広げることができなかった。
	◇地域に根ざした保護者・地域に信頼される学校づくりを進める。	◆学校運営協議会・PTA との連携を深め嵯峨・嵐山の教育資源を活用し地域に根ざした信頼される学校づくりに努める。	15	B		

学校関係者評価委員会による評価	進路実績については学校の取り組みと生徒の努力が表れていて良いと思う。家庭学習時間が少ないのに進路実績が良いのは学校での学習が充実していると考えられる。 家庭学習時間が少ないのはスマホやタブレットに時間が奪われているのではないか。情報モラル・ルールなどの指導が必要ではないか。 自転車マナーについては、住民として見ると朝早い時間や下校時に乱れている。地域の方が気にするポイントでもあり改善が求められる。 ICT活用は進んでいると思われるが、保護者の満足度が低いのは要求水準が高いからかもしれない、さらなる工夫が必要である。 新型コロナウイルス対応では生徒や学校が工夫して教育活動を進めてきた。その工夫した分、生徒が強くなっていると感じる。 コロナ禍において若者の孤独感、対人ストレスが高まっている。学校においても、生徒・新採教員のメンタル面のフォローが大切である。					
次年度に向けた改善の方向性	B評価の項目を中心に、全ての課題に対して改善を図る。特に学校関係者評価委員会から指摘された新しい学力観に基づく主体的な学びの実現、自転車の交通マナーの徹底、対人関係等のメンタル面のフォローなどを重点的におこなう。					